

《学力状況調査の結果》

4月17日木曜日、全国の小学6年生を対象に実施された「2025年度全国学力・学習状況調査」の調査結果が7月に公表されました。調査結果をうけて、今後の教育の改善と向上に向けて、本校としての課題と改善策等を以下のようにまとめましたので、ご報告させていただきます。

国語…国語全体の結果は、全国平均をやや下回っていました。

言葉の特徴や使い方に関する問題は正答率が高かったです。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていました。今後も基礎的・基本的な学力の定着を大切に学習を進めていきたいと思えます。

一方で、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える力」と「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」に課題が見られました。根拠を明確にして自分の考えを表現する思考力、判断力、表現力等を育成するバランスの取れた学習の活動を進めていくことに重点を置いて取り組んでまいります。

算数…算数全体の結果は、全国平均をやや下回っていました。

「データの活用」の領域では、正答率が高く、出題形式（選択式・短答式・記述式）を問わずバランスよく解答できています。特に、「データの活用」の領域では棒グラフから項目間の関係を読み取り、目的に応じて適切なグラフを判断したり、その理由を記述したりすることができました。

一方で、「変化と関係」の領域に課題が見られました。具体的には、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて記述する問題」と『10%増量』の意味を理解し、増量前の何倍になっているのかを表す問題」です。基礎的・基本的な学力を更に充実させるとともに、示された問題内容の説明を解釈する力など場面に応じた活用力を身につけていくことが重要です。個別最適な学びと協働的な学びの調和を図りながら、場面に応じて適切に数学的処理ができる力の向上を目指して取り組んでまいります。

理科…理科全体の結果は、全国平均とほぼ同程度でした。

特に、記述式の問題形式の問題において正答率が高く、結果を基に結論を導いた理由を説明したり、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし表現したりすることができています。協同的探究学習が進められる中で友だちと意見交流する機会が増え、互いの意見の共通点や相違点に焦点をあてたり、必要な情報との関連性を深く考えたりしている成果が表れていると考えます。また、全ての問題において無解答率が全国平均よりも低かったです。今後も粘り強く課題に向き合う姿勢を大切に学習を進めていきたいと思えます。

一方で、「粒子」を柱とする領域に課題が見られました。4年次の学習内容「もののあたたり方」を基にした出題となっており、過年度の学習についても確実な定着を進めてまいります。

質問調査

自己有用感を問う質問、先生や友だちとの関係性を問う質問、規範意識を問う質問等において、本校は全国平均よりも肯定的な回答が得られました。また、習い事以外で地域の大人に体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることが多く、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童の割合が多く、地域と良い関係を築いていることが伺われました。

一方で、学校の授業時間以外における学習時間や読書をする時間は全国平均より短かったです。夢や希望をもち、人の役に立つ人間になりたいと意欲的に考えている子どもたちの思いを大切にしながら、より一層学校教育目標の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。